



成果指標				
成果指標	中山老人憩の家の一日平均利用人数を20人以上にする。			
指標設定の考え方	中山老人憩の家では「がんばる会」という介護予防のための自主活動グループをつくり利用促進を図っており、その効果を検証するため指標を設定した。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	20.0人	20.0人	20.0人	0
実績	15.1人	13.1人	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	高齢者の健康増進とふれあいの場としての役割は大きいですが、どの施設も昨年度の実績を下回った。利用者が固定化されつつあるので、指定管理者と協力しながら地域の活動拠点としての機能向上を図っていく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	自己評価者の意見のとおり、利用者が固定化し、どの施設も昨年度の実績を下回っており、指定管理者と協力しながら地域の活動拠点としての機能向上を図っていく必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	利用者が減少しており、効果的に活用されるよう努める。

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。